

6616

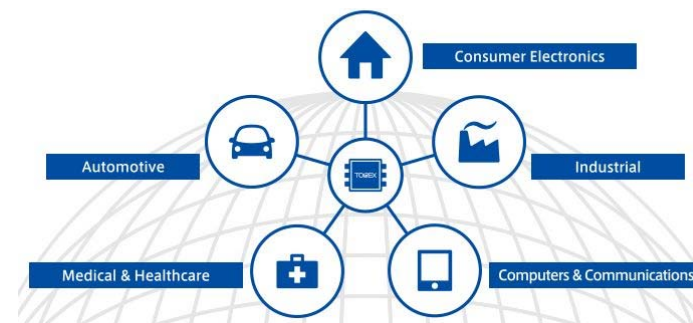
TOIREX
Torex...Powerfully Small!

第22期（2017年3月期）第2四半期 決算説明資料

2016年11月18日

トレックス・セミコンダクター株式会社

世界は「アナログ」でできている
あらゆるフィールドで活躍するトレックスの電源IC



1

2017年3月期 第2四半期業績

2

2017年3月期 通期予想

3

中期経営ビジョン

4

株主還元

Appendix

2017年3月期 第2四半期業績

- ▶ 上期累計実績はほぼ予想水準
- ▶ 第2四半期でさらに円高の影響が拡大
- ▶ フェニテックは受注好転の兆しだが寄与せず

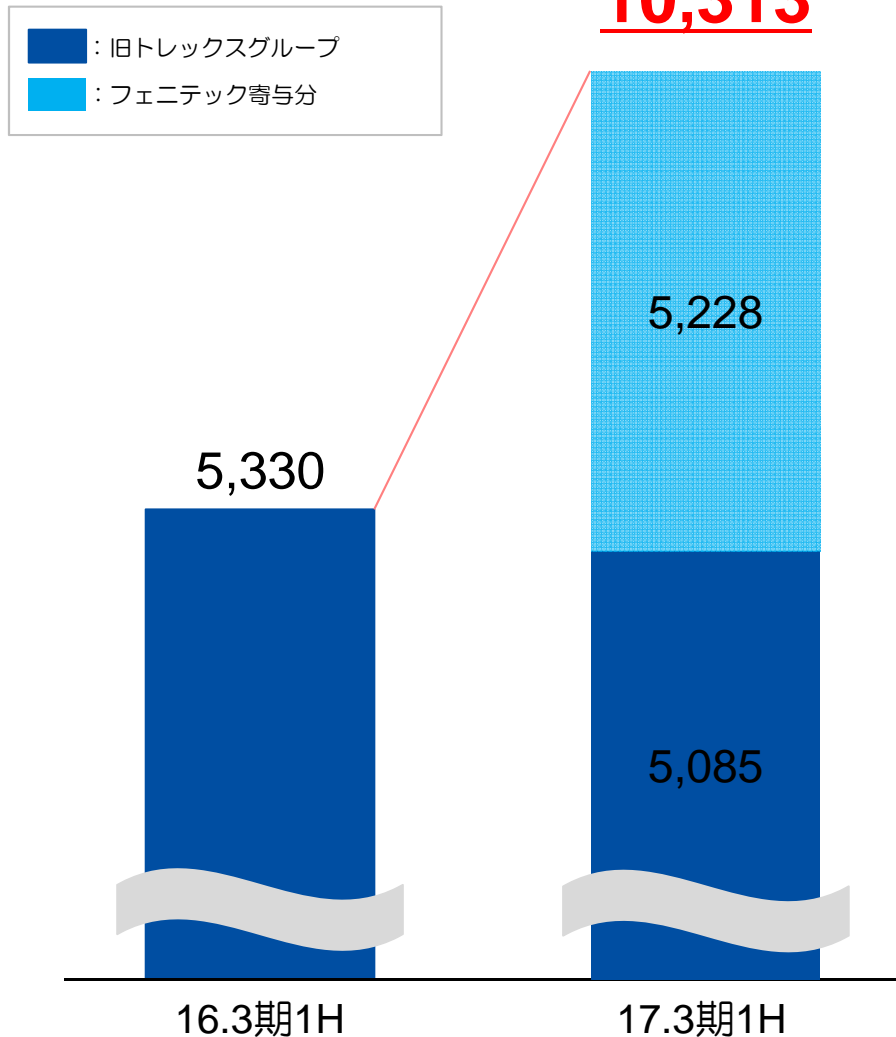
※注：2017年3月期の実績はフェニテックを含む連結の実績です。

(単位：百万円)

科目	2016年3月期 上期実績	2017年3月期 上期実績	対前年 増減率(%)	2017年3月期 上期予想	対予想 増減率(%)
売上高	5,330	10,313	+93.5%	10,300	0.1%
営業利益	745	387	▲48.1%	400	▲3.2%
営業利益率	13.9%	3.8%	▲10.1pt	3.9%	▲0.1pt
経常利益	761	▲266	—	▲100	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	519	2,332	+348.8%	2,400	▲2.8%
EPS (円)	48.02	234.87	+389.1%	225.35	+4.2%
海外売上高比率 ^(*)	72.9%	67.8%	▲5.1pt	—	—
平均為替レート (1\$=)	121.4	106.4	▲15.0	—	—
減価償却費	200	528	+164.1%	—	—
設備投資	319	680	+91.5%	—	—

(*) 海外売上高比率：外貨建て売上比率

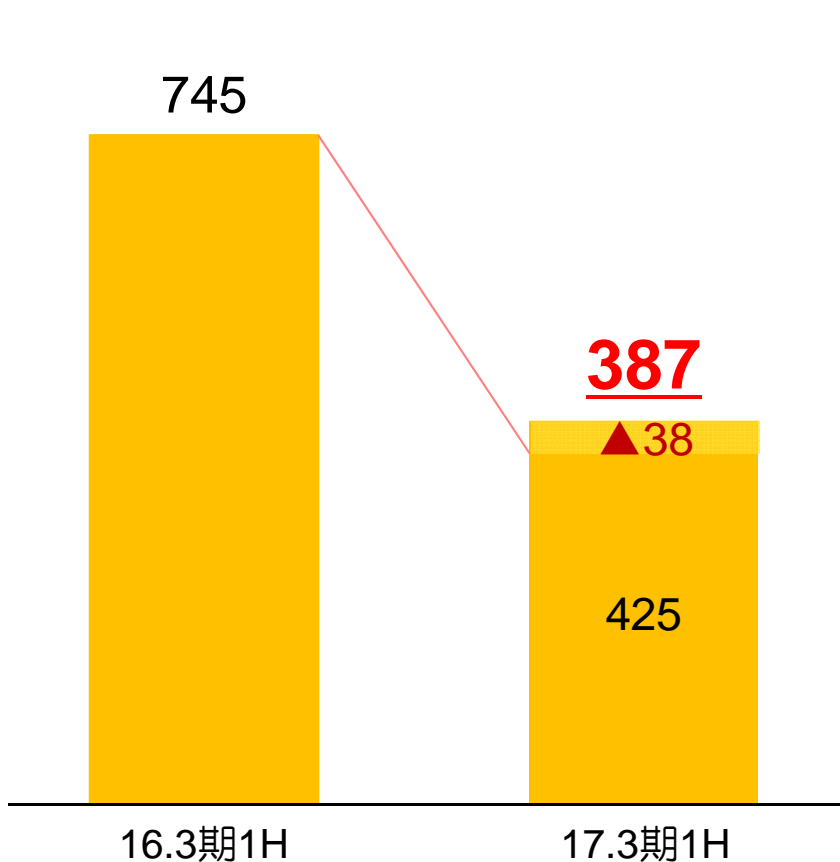
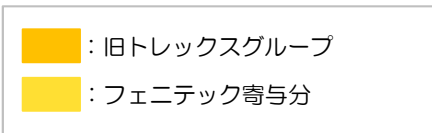
(単位：百万円)



- 旧トレックスグループ
 - 前年比で販売数量はプラス
 - 円高で販売単価がマイナス
 - アジア地域の日系企業向け売上等が減少
- フェニテック
 - お客さまの在庫調整は一巡しつつあるが
 - 円高もあり引続き前年比大幅減収

科目	2015年度1H 実績	2016年度1H 実績	増減率 (%)
売上高	5,330	10,313	93.5%

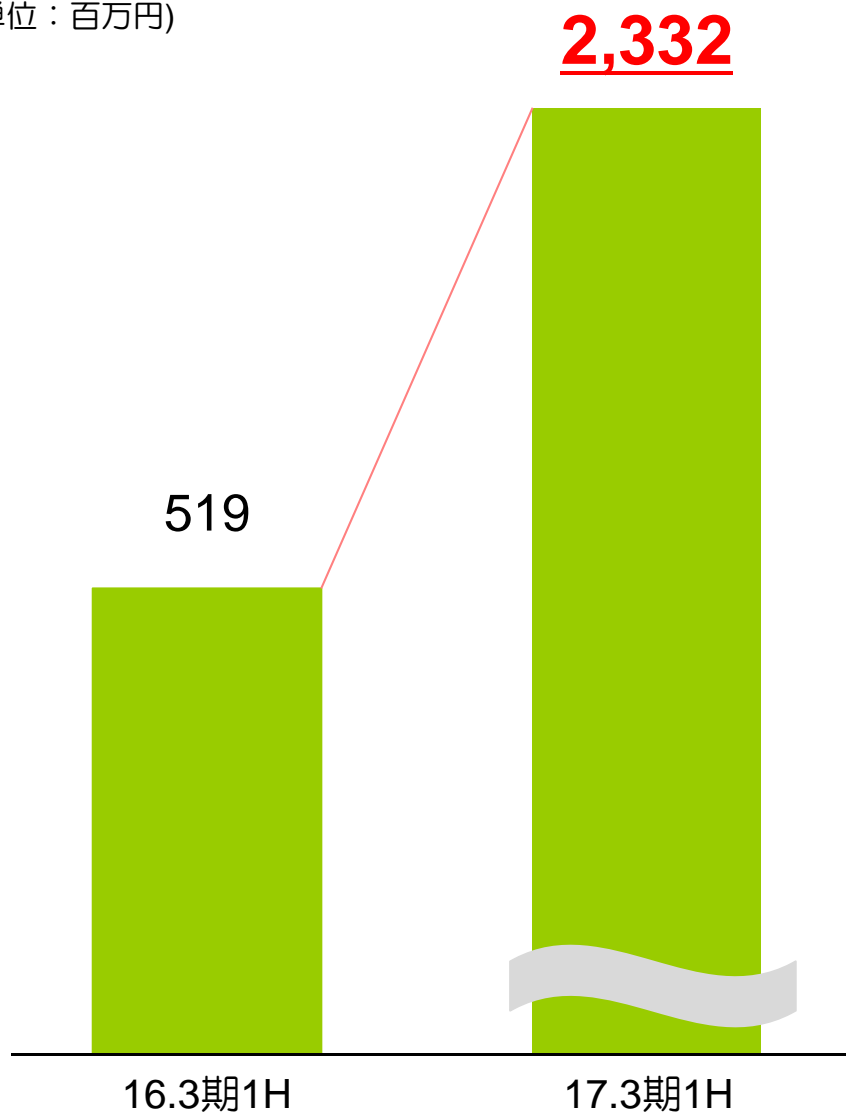
(単位：百万円)



- 旧トレックスグループ
 - 円高による粗利益率低下
 - 販管費は小幅増加
- フェニテック
 - 経費抑制に努めたが原価率高止まりで利益貢献できず

科目	2015年度1H 実績	2016年度1H 実績	増減率 (%)
営業利益	745	387	▲48.1%

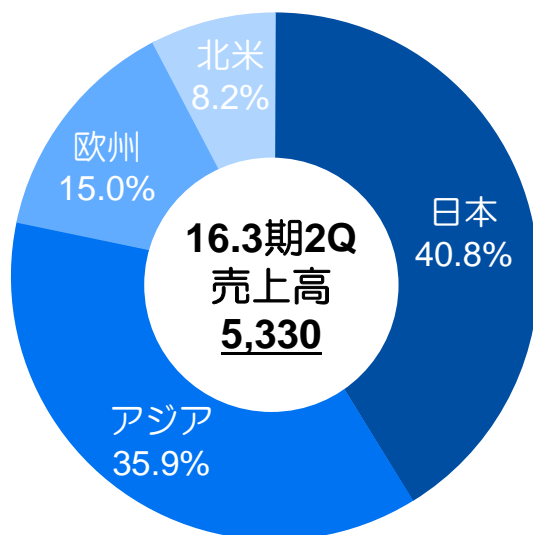
(単位：百万円)



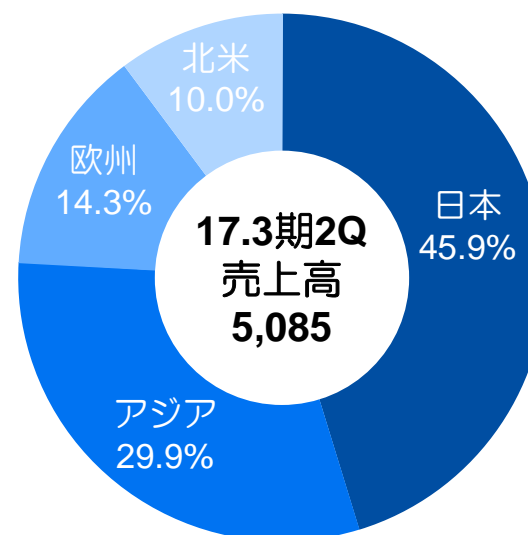
- 営業外で為替差損641百万円
- 特別損益2,488百万円
 - 負ののれん発生益1,966百万円
 - 受取補償金518百万円

科目	2015年度1H 実績	2016年度1H 実績	増減率 (%)
親会社株主に帰属する当期純利益	519	2,332	348.8%

2017年3月期 第2四半期業績 ～地域別売上高（旧トレックスGのみ）



16.3期 2Q



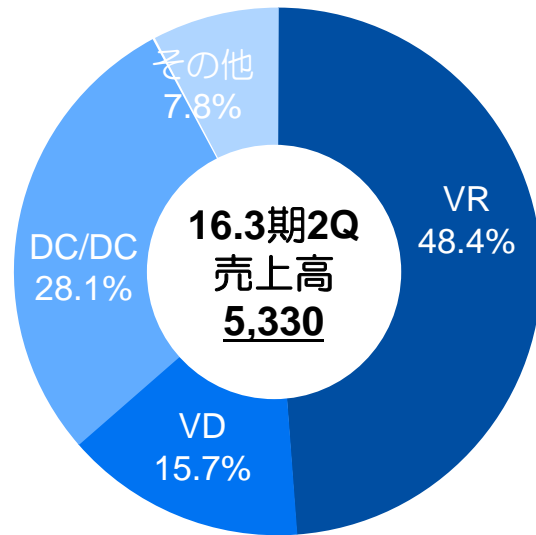
17.3期 2Q

(単位：百万円)

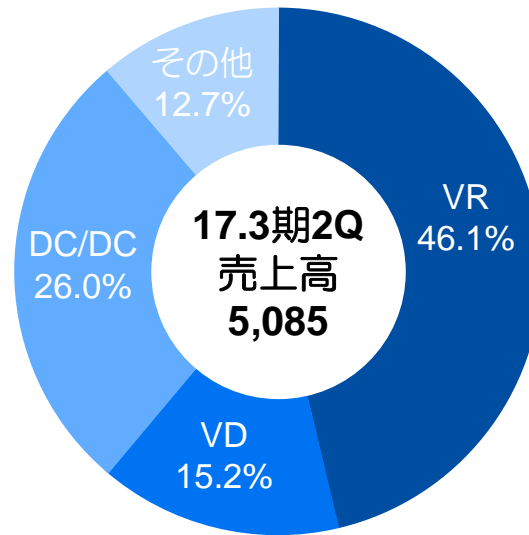
地域 (D-in)	16.3期 2Q		17.3期 2Q		前年比 売上高
	D-in 売上高	構成比	D-in 売上高	構成比	
日本	2,177	40.8%	2,332	45.9%	107.1%
アジア	1,913	35.9%	1,518	29.9%	79.4%
欧州	802	15.0%	727	14.3%	90.6%
北米	436	8.2%	506	10.0%	116.1%
平均為替レート (1\$=)	121.4円		106.4円		—

D-in 売上高：デザイン・イン・ベース売上高。当社の製品を搭載した製品が企画・設計され、実質的に受注を獲得した地域をベースとした売上高

2017年3月期 第2四半期業績 ～品種別売上高（旧トレックスGのみ）



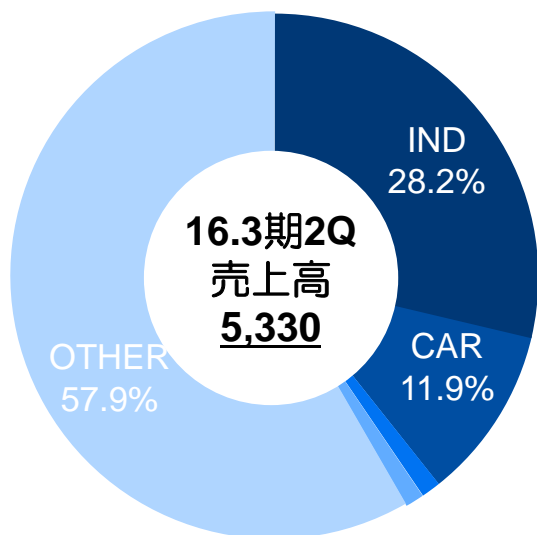
16.3期 2Q



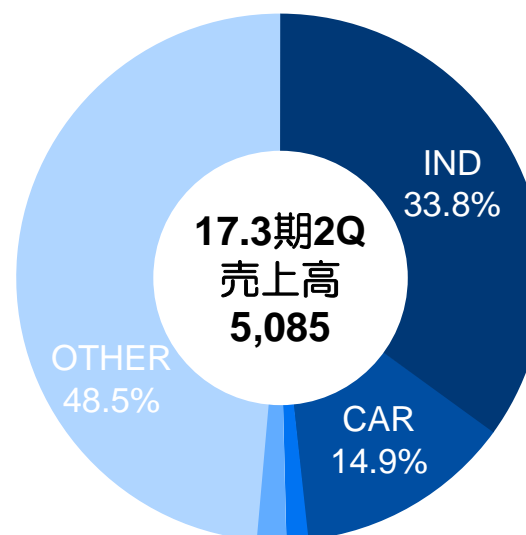
17.3期 2Q

(単位：百万円)

品種	16.3期 2Q		17.3期 2Q		前期比
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高
VR	2,579	48.4%	2,345	46.1%	90.9%
VD	839	15.7%	773	15.2%	92.2%
DC/DC	1,496	28.1%	1,320	26.0%	88.2%
その他	414	7.8%	645	12.7%	155.8%



16.3期 2Q



17.3期 2Q

(単位：百万円)

アプリケーション		16.3期 2Q		17.3期 2Q		前期比
		売上高	構成比	売上高	構成比	売上高
IND	産業機器	1,501	28.2%	1,717	33.8%	114.4%
CAR	車載機器	634	11.9%	759	14.9%	119.7%
MED	医療機器	46	0.9%	54	1.1%	117.4%
WEA	ウェアブル機器	61	1.1%	85	1.7%	139.3%
OTHER	その他機器	3,082	57.9%	2,468	48.5%	80.1%

※注：アプリケーションの分類は変更することがあります。

2017年3月期 第2四半期業績 ～地域別売上傾向（旧トレックスGのみ）

- 主に産業機器、車載機器向けの売上が増加しました。

TOIREX

日本

- 産業機器、車載機器分野が増大
- 地域区分の中で一番DC/DCの割合が大きい

アジア

- デジタル家電機器分野が好調、産業機器・PC分野が低調
- その他（ディスクリート等）の販売が最も多い地域

欧州

- 産業機器、デジタル家電分野が好調
- VRの割合が50%弱

北米

- 産業機器分野が好調
- 全ての製品群がバランスよく売れている

2017年3月期 第2四半期業績 ～地域別売上高（フェニテックのみ）



(単位：百万円)

地域（顧客）*	17.3期 2Q	
	売上高	構成比
日本	2,212	37.8%
アジア	1,440	24.6%
欧州	232	4.0%
北米	1,970	33.7%

※ 顧客の所在地別に区分しております。

2017年3月期 第2四半期業績 ～品種別売上高（フェニテックのみ）



(単位：百万円)

品種	17.3期 2Q	
	売上高	構成比
アナログIC*1	965	16.5%
ディスクリート他*2	4,890	86.5%

※1 バイポーラ, CMOSを含む

※2 IGBT, PMOS, その他ディスクリート等を含む



(単位：百万円)

アプリケーション		17.3期 2Q	
		売上高	構成比
IND	産業機器	1,129	19.3%
CAR	車載機器	1,576	26.9%
MED	医療機器	178	3.0%
OTHER	その他機器	2,971	50.8%

※注：アプリケーションの分類は変更することがあります。

フェニテックの子会社化により、資産・負債の部が大幅に変わりました。

(単位：百万円)

科目	2015年度末 実績	2016年度 2Q 実績	対前年増減率 (%)
資産	12,972	25,236	+94.5%
負債	2,043	11,462	+460.8%
純資産	10,928	13,774	+26.0%

<参考> キャッシュ・フロー関連指標の推移

科目	2015年度末 実績	2016年度 2Q 実績	対前年増減率
有利子負債	13	7,399	+55200.1%
自己資本比率	83.9%	45.3%	▲38.6 (ポイント)
D/Eレシオ	0.00	0.64	+0.64

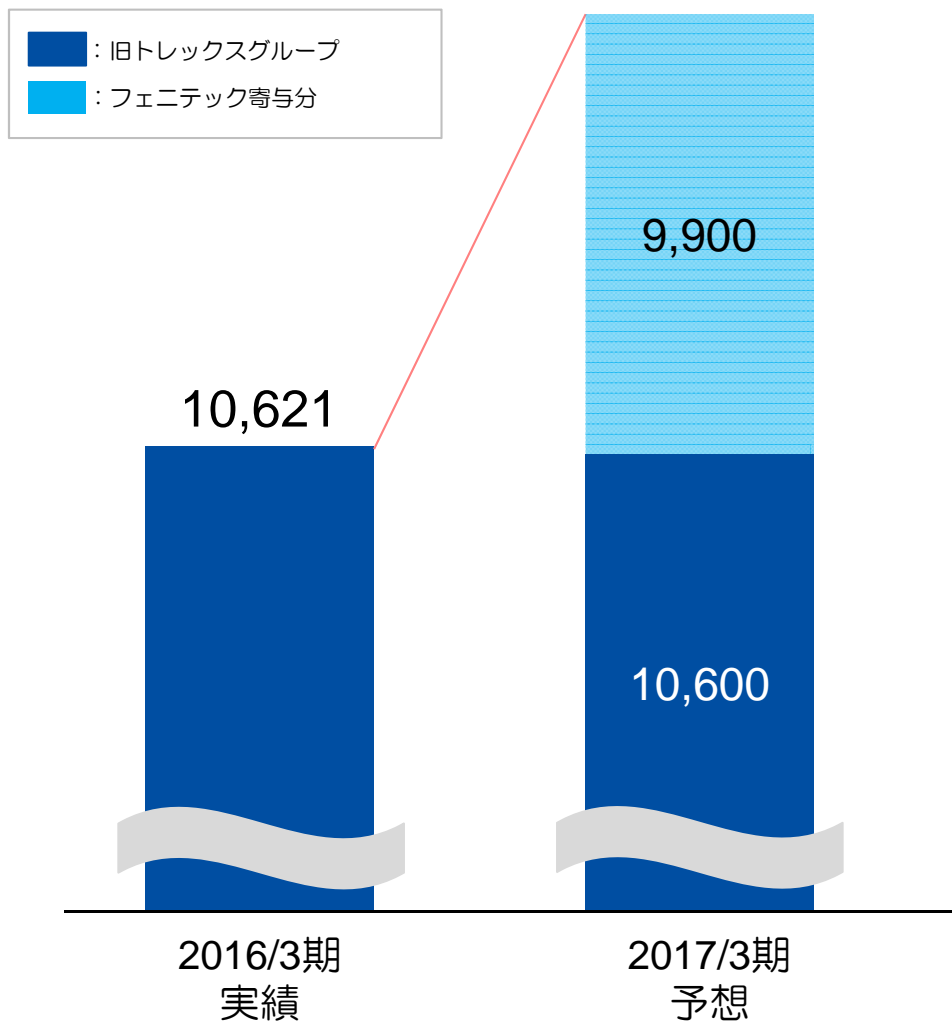
2017年3月期 通期予想

(単位：百万円)

科目	2016年3月期通期 実績	2017年3月期通期 予想	対前年増減率 (%)
売上高	10,621	20,500	+93.0
営業利益	1,139	900	▲21.0
営業利益率	10.7%	4.4%	▲6.3 (ホ° イト)
経常利益	970	400	▲55.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	580	2,700	+365.2
EPS (円)	53.57	253.52	+373.2
海外売上高比率 (*)	70.6%	65.6%	▲5 (ホ° イト)
平均為替レート (1\$=)	¥120.1	¥103.4 (下半期は ¥100.0 を想定)	-
減価償却費	441	971	+126.8
設備投資	602	1,528	+153.6
ROE	5.3%	20.0%	+14.7 (ホ° イト)

(*) 海外売上高比率：外貨建て売上比率

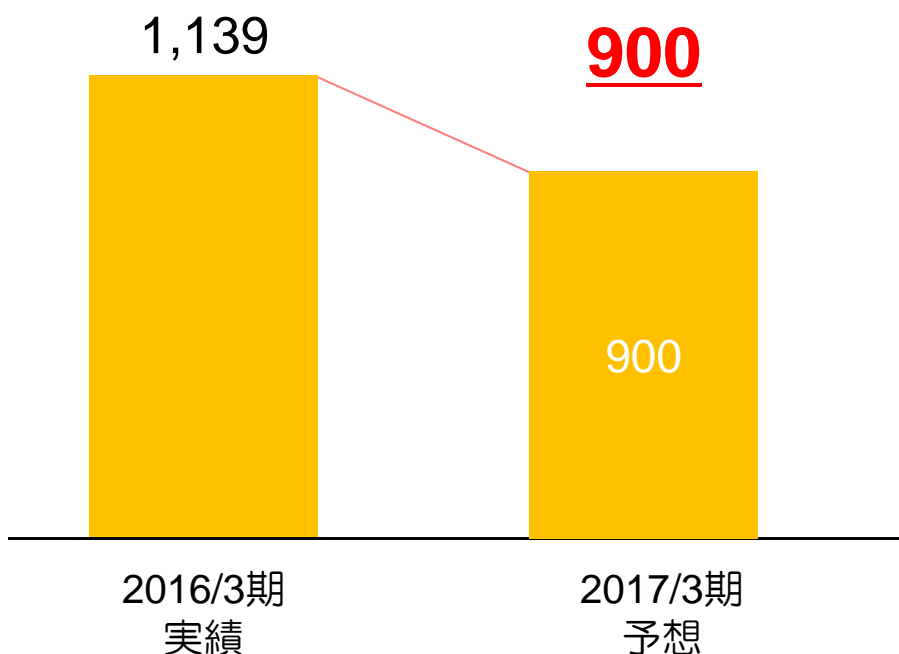
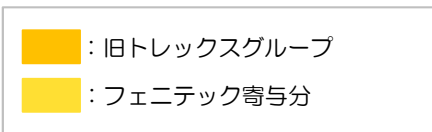
(単位：百万円)



- 旧トレックスグループ
 - ほぼ前年並み
 - 引続き円高によりアジアを中心に単価下落を見込む
- フェニテック
 - お客さまの動向を見極め慎重な見通し

科目	2016年3月期 通期実績	2017年3月期 通期予想	増減率 (%)
売上高	10,621	20,500	+93.0

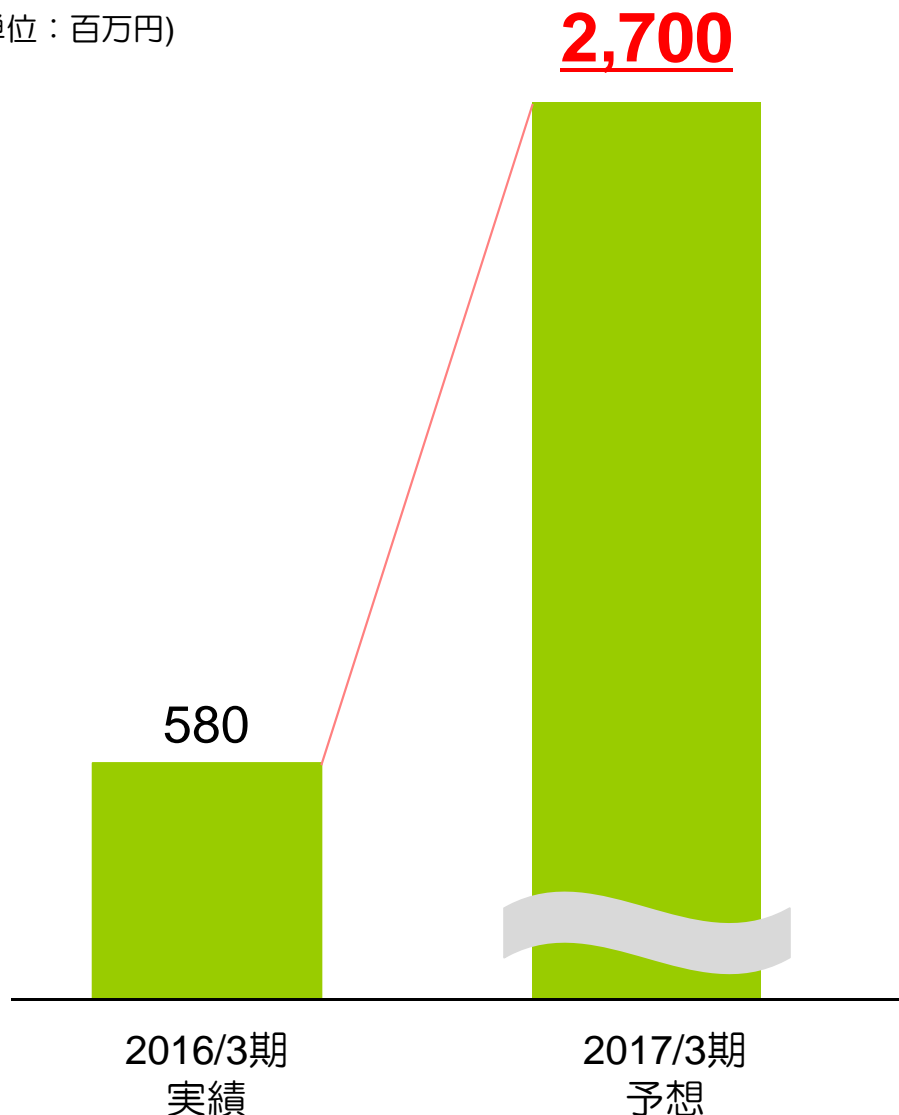
(単位：百万円)



- 円高に伴い利益率が低下
- フェニテックの損益は下期に向けて改善見込だが、通期の減収と利益率低下により利益寄与がほぼゼロ
- フェニテック鹿児島工場の稼働は上がりつつあるが、通期で低いレベルで計上

科目	2016年3月期 通期実績	2017年3月期 通期予想	増減率 (%)
営業利益	1,139	900	▲21.0

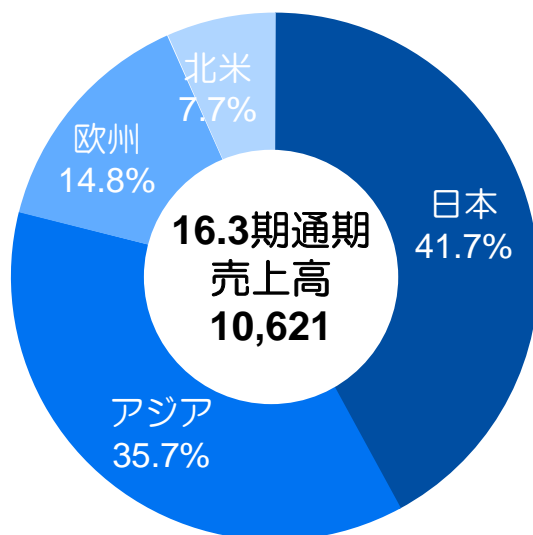
(単位：百万円)



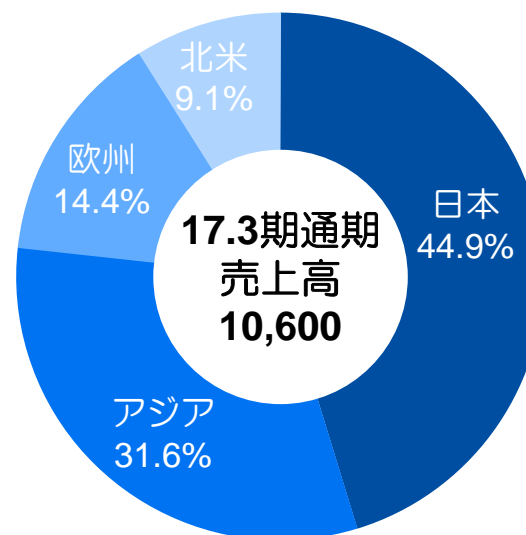
- 第1四半期の特別利益の影響で高い水準の当期純利益で着地予想
- フェニテックの損益は下期に向けて改善見込

科目	2016年3月期 通期実績	2017年3月期 通期予想	増減率 (%)
当期純利益	580	2,700	+365.2

2017年3月期 通期予想 ～地域別売上高（旧トレックスG）



16.3月期通期実績



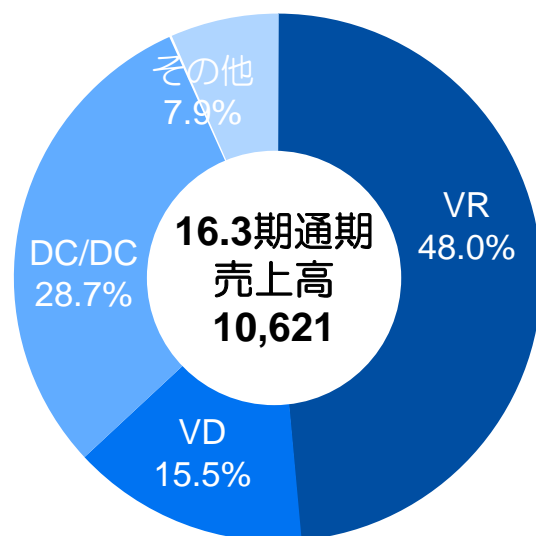
17.3月期通期予想

(単位：百万円)

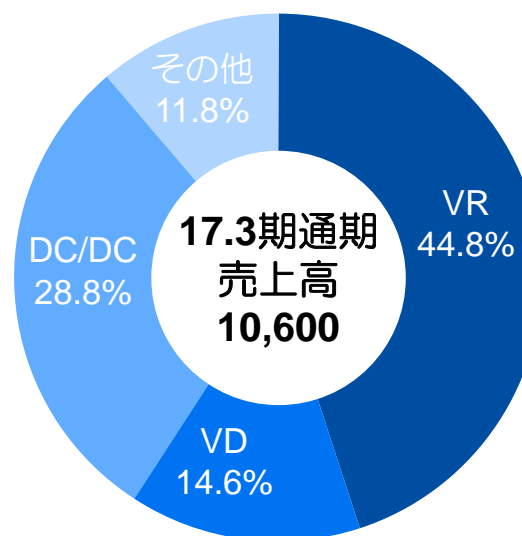
地域 (D-in)	16.3期 実績		17.3期 予想		前年比
	D-in 売上高	構成比	D-in 売上高	構成比	売上高
日本	4,429	41.7%	4,760	44.9%	107.5%
アジア	3,797	35.7%	3,350	31.6%	88.2%
欧州	1,575	14.8%	1,530	14.4%	97.1%
北米	818	7.7%	960	9.1%	117.4%
平均為替レート (1\$=)	120.1円		103.4円		—

D-in 売上高：デザイン・イン・ベース売上高。当社の製品を搭載した製品が企画・設計され、実質的に受注を獲得した地域をベースとした売上高

2017年3月期 通期予想 ～品種別売上高（旧トレックスGのみ）



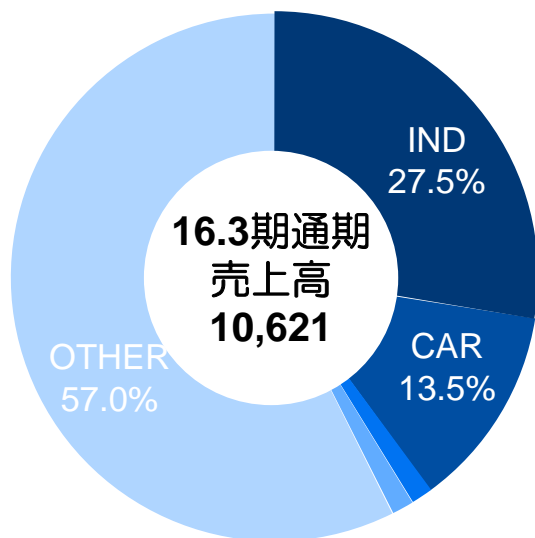
16.3月期通期実績



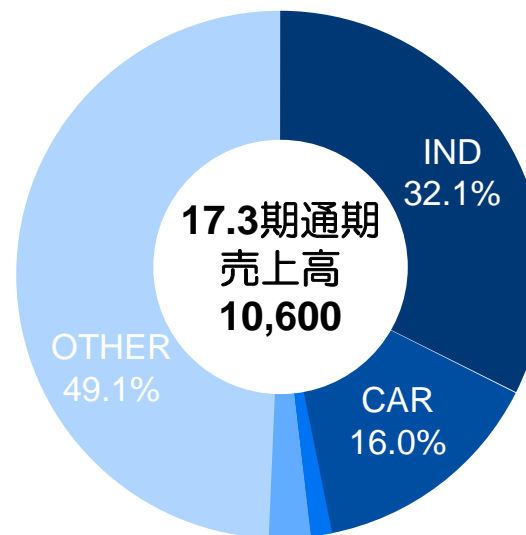
17.3月期通期予想

(単位：百万円)

品種	16.3期 実績		17.3期 予想		前期比
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高
VR	5,094	48.0%	4,750	44.8%	93.2%
VD	1,641	15.5%	1,550	14.6%	94.5%
DC/DC	3,046	28.7%	3,050	28.8%	100.1%
その他	839	7.9%	1,250	11.8%	149.0%



16.3月期通期実績



17.3月期通期予想

(単位：百万円)

アプリケーション		16.3期 実績		17.3期 予想		前期比
		売上高	構成比	売上高	構成比	売上高
IND	産業機器	2,918	27.5%	3,400	32.1%	116.5%
CAR	車載機器	1,429	13.5%	1,700	16.0%	119.0%
MED	医療機器	96	0.9%	100	0.9%	104.2%
WEA	ウェアブル機器	120	1.1%	200	1.9%	166.7%
OTHER	その他機器	6,054	57.0%	5,200	49.1%	85.9%

※注：アプリケーションの分類は変更することがあります。

2017年3月期 通期予想 ～地域別売上高（フェニテックのみ）



(単位：百万円)

地域（顧客）*	17.3期 予想	
	売上高	構成比
日本	4,500	39.5%
アジア	2,500	21.9%
欧州	500	4.4%
北米	3,900	34.2%

※注：顧客の所在地別に区分しております。

2017年3月期 通期予想 ～品種別売上高（フェニテックのみ）



(単位：百万円)

品種	17.3期 予想	
	売上高	構成比
アナログIC*1	1,750	15.4%
ディスクリート他*2	9,650	84.6%

※1 バイポーラ, CMOSを含む

※2 IGBT, PMOS, その他ディスクリート等を含む



(単位：百万円)

アプリケーション		17.3期 予想	
		売上高	構成比
IND	産業機器	2,500	21.9%
CAR	車載機器	3,200	28.1%
MED	医療機器	300	2.6%
OTHER	その他機器	5,400	47.4%

※注：アプリケーションの分類は変更することがあります。

中期経営ビジョン

これまでの事業

超小型・省電力
電源ICの
開発・販売



トレックス・
セミコンダクター
グループ

フェニテック

半導体（ウェハー）
の製造・販売

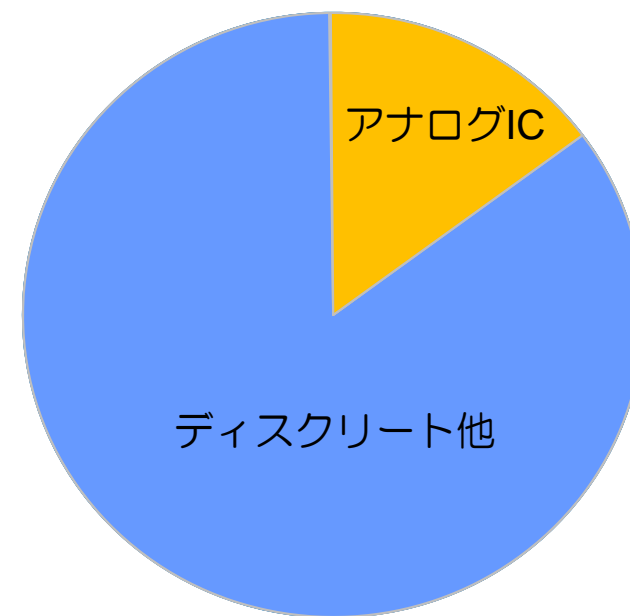
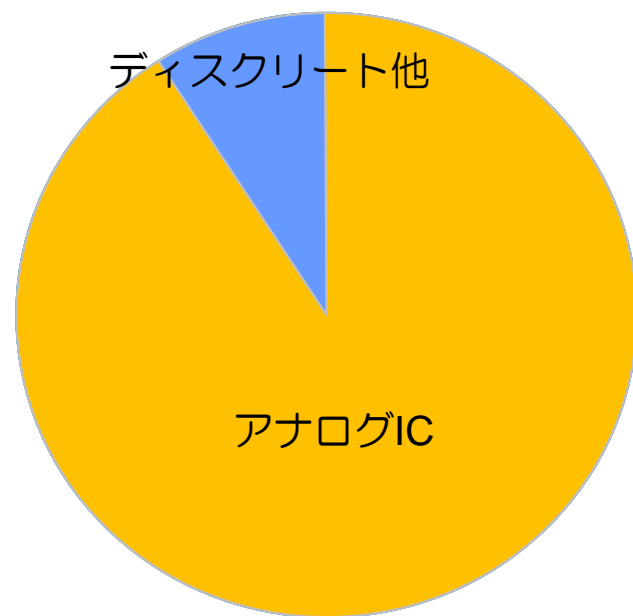
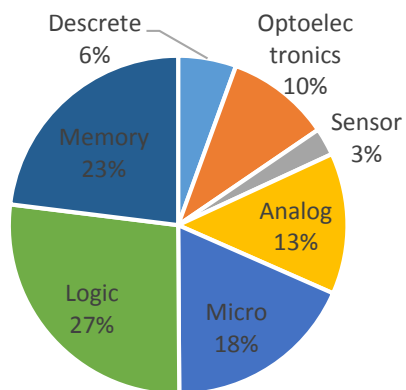
アナログ電源ICとディスクリート製品に集中しています。

製品のライフサイクルが長く、最先端の製造設備は必要としませんが、製造ラインと製品性能の関連性が高いため移設が難しいことが特徴です。

旧トレックス

フェニテック

2015年の世界市場
WSTS 2016年春季半導体市場予測



(2016年3月期実績)

- ※1 バイポーラ, CMOSを含む
- ※2 IGBT, PMOS, その他ディスクリート等を含む

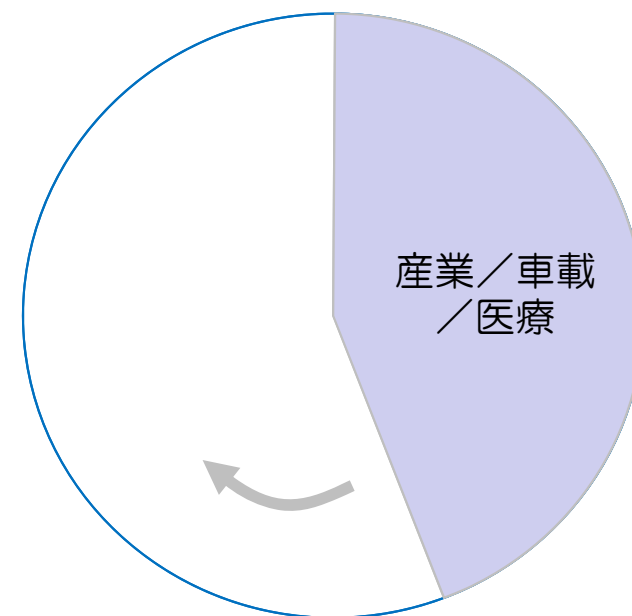
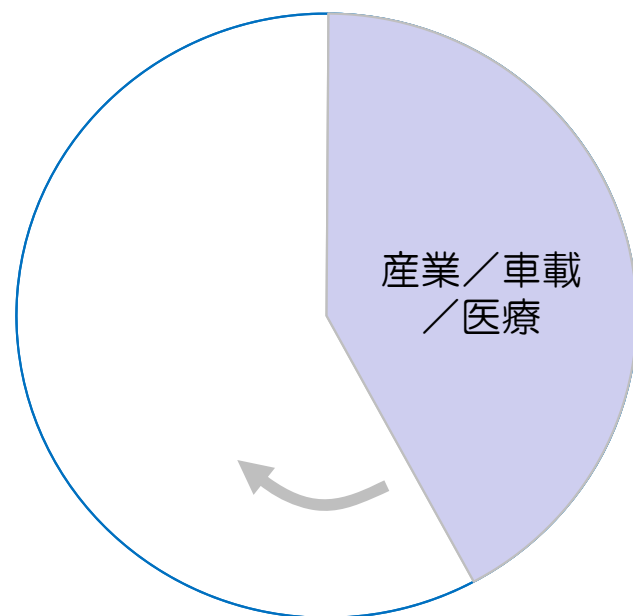
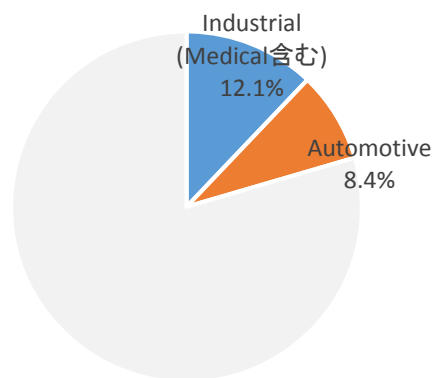
産業・車載・医療の3分野の構成比が増大しています。

電子制御や通信等の機能が付加・拡充していくとともにトレックス製品の潜在市場は拡大していく見通しです。

旧トレックス

フェニテック

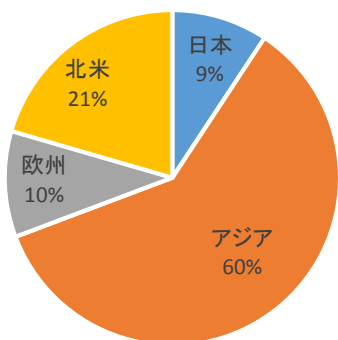
2015年の世界市場
IHS Global株式会社



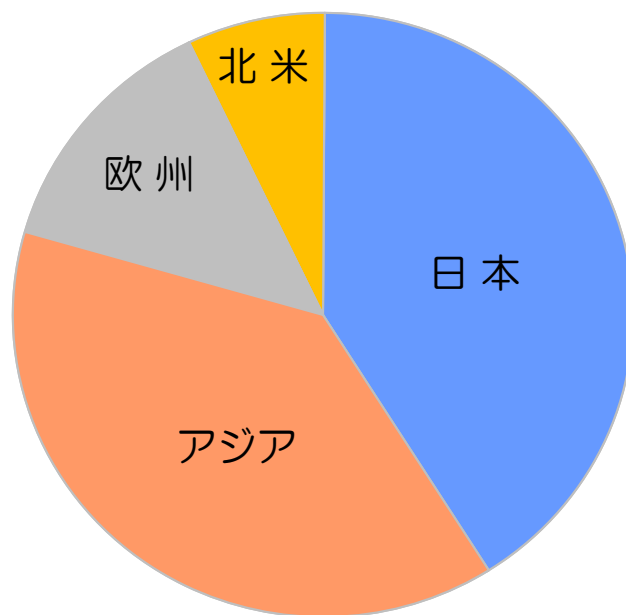
(2016年3月期実績：参考値)

仕向け先として欧米・アジアの比重が高まっていく見込みです。
顧客基盤を拡大していく上で欧米、特に米国市場への浸透を進めています。

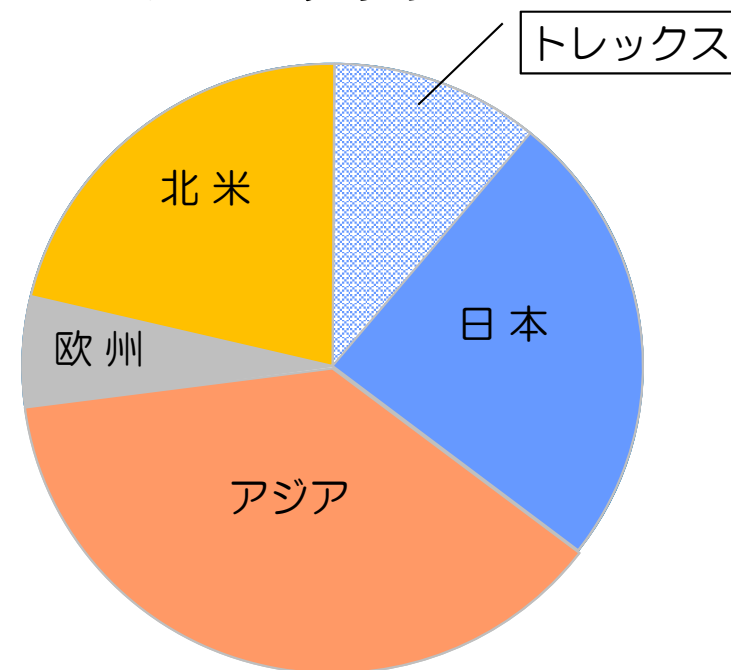
2015年の世界市場
WSTS 2016年春季半導体市場予測



旧トレックス (D-in)



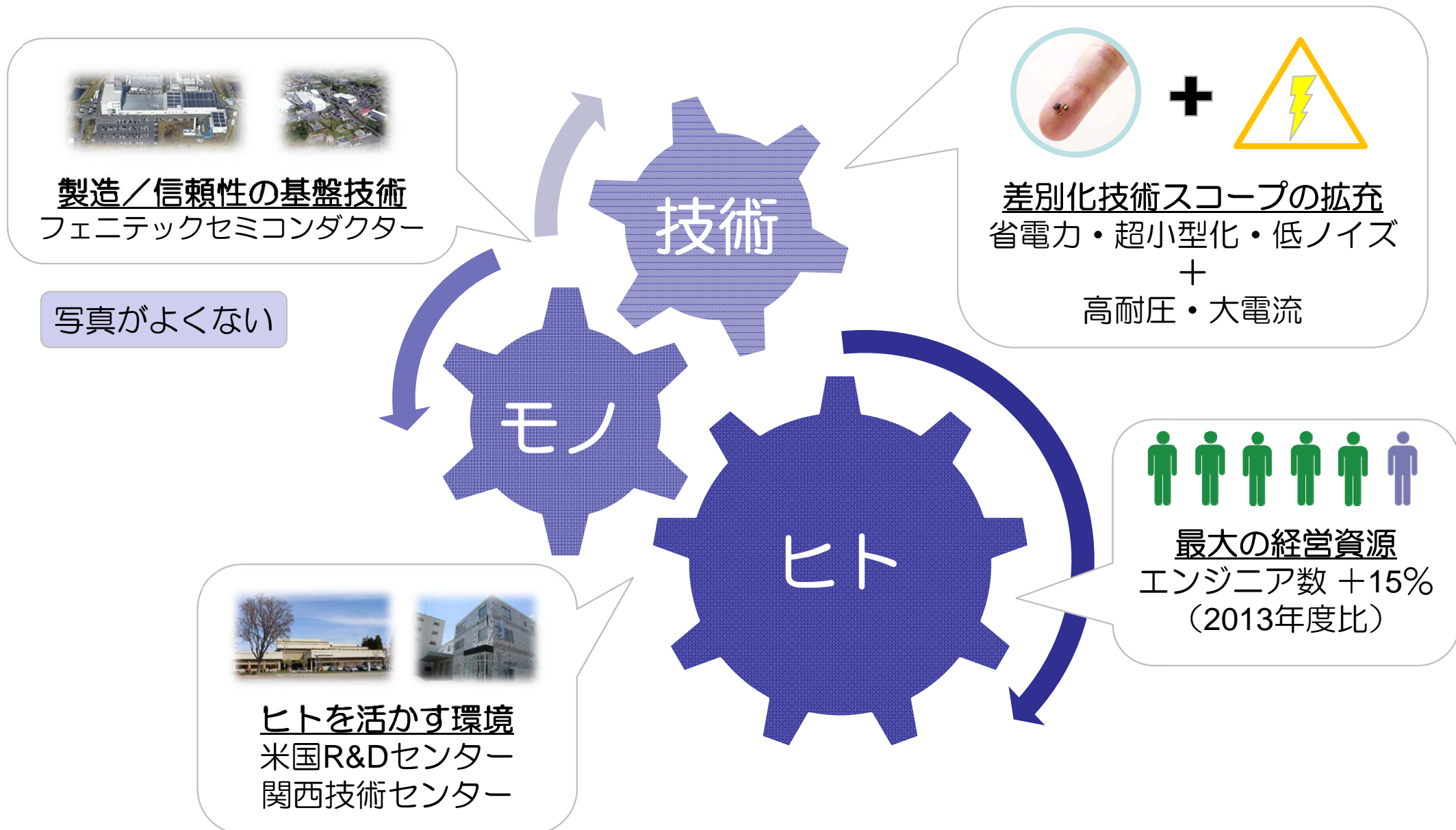
フェニテック



(2016年3月期実績)

注：フェニテックの構成比はセグメント別売上高とは異なります

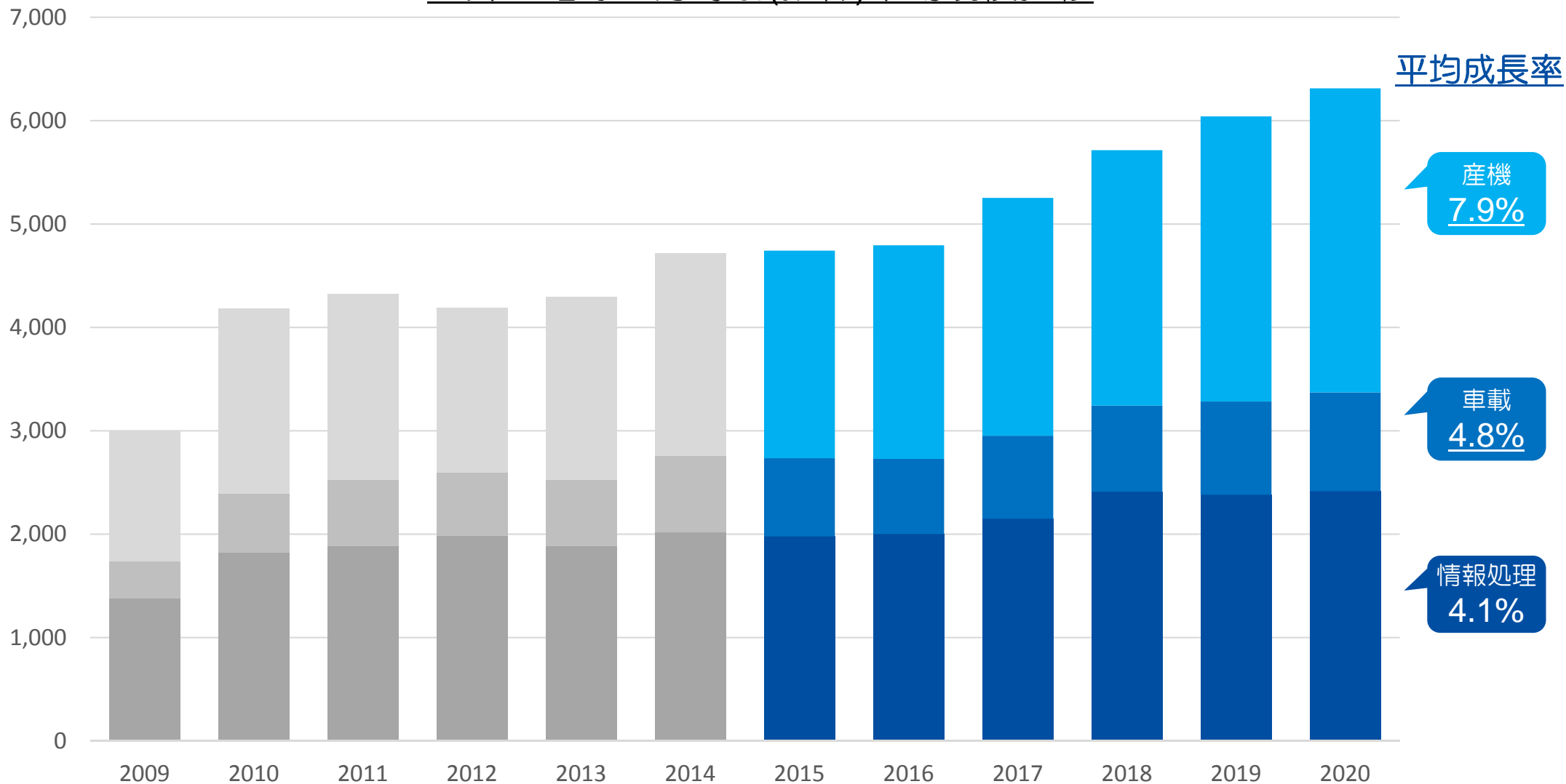
2014年4月のIPO以降、成長に向けたリソースの充実を図ってきました。



これからの電源IC市場はワイヤレスや家電分野よりも車載・産業機器分野において相対的に高い成長が期待されます。

(単位：Millions USD)

世界の電源IC分野別(抜粋)市場規模推移

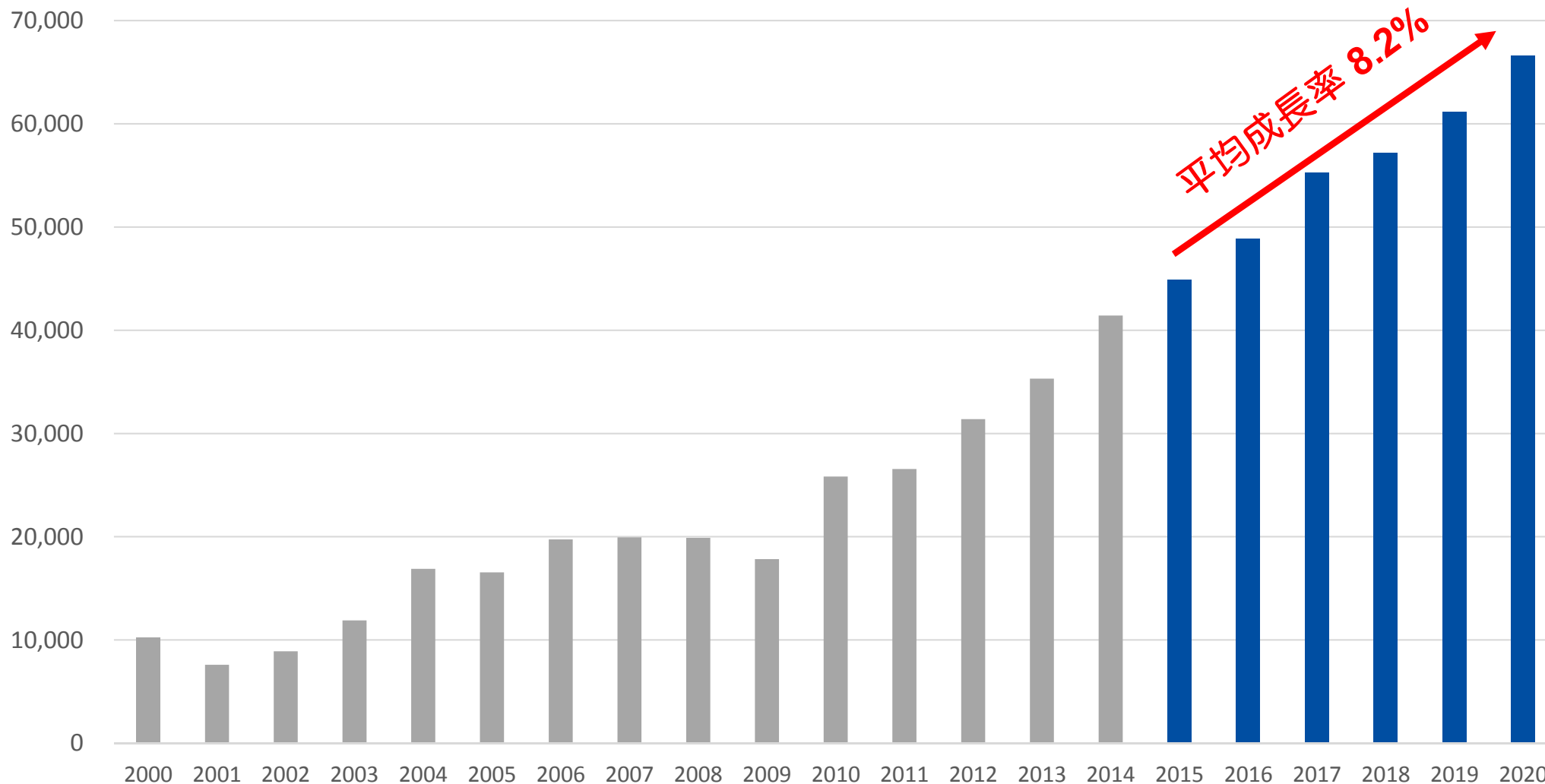


【出典】IHS Global株式会社調べ(2016年)

ファンドリー市場は、リーマンショック以降堅調に推移しております。

世界のピュアファンドリー市場規模推移

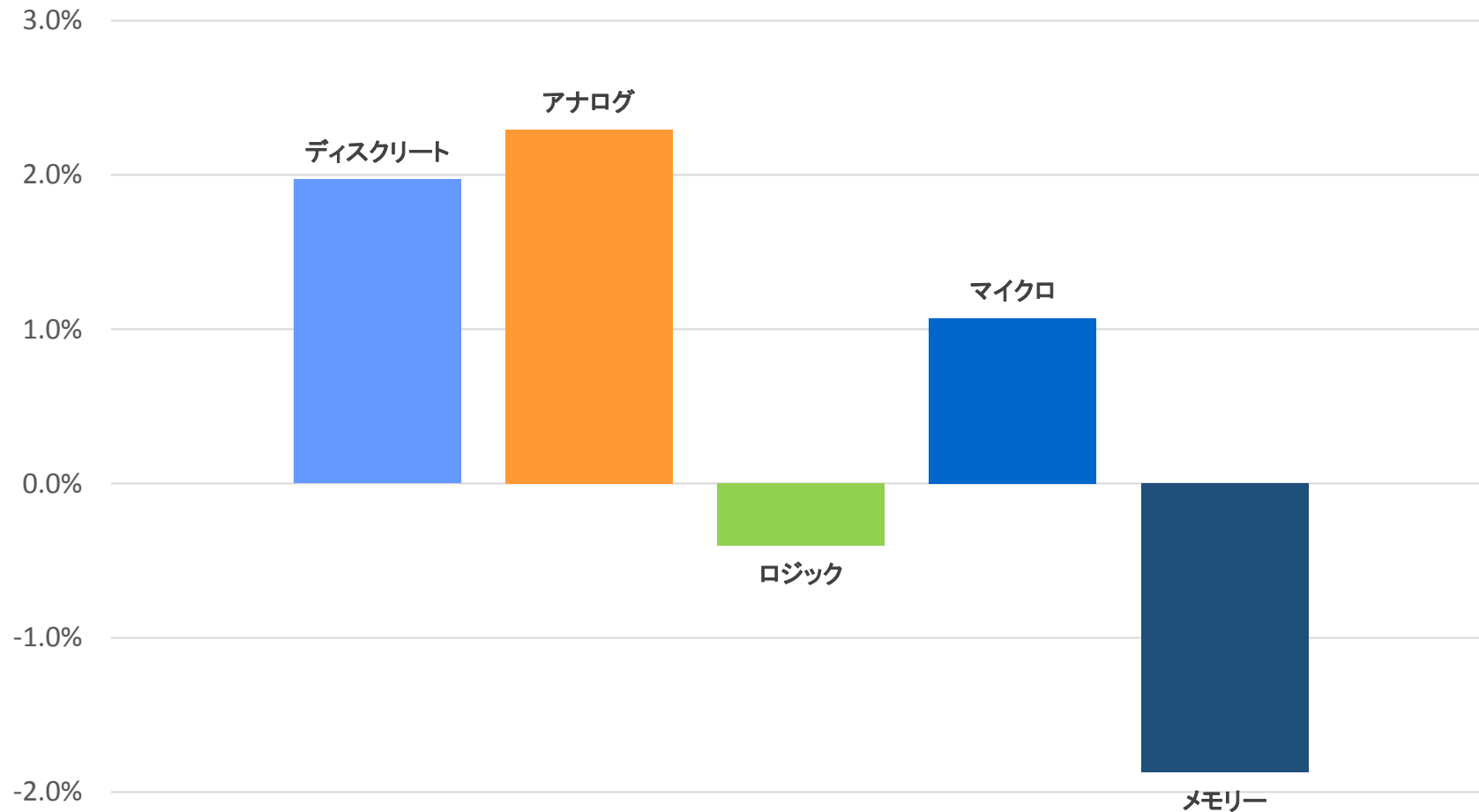
(単位：Millions USD)



【出典】IHS Global株式会社調べ（2016年）

アナログICとディスクリートは堅調な伸びを期待できます。

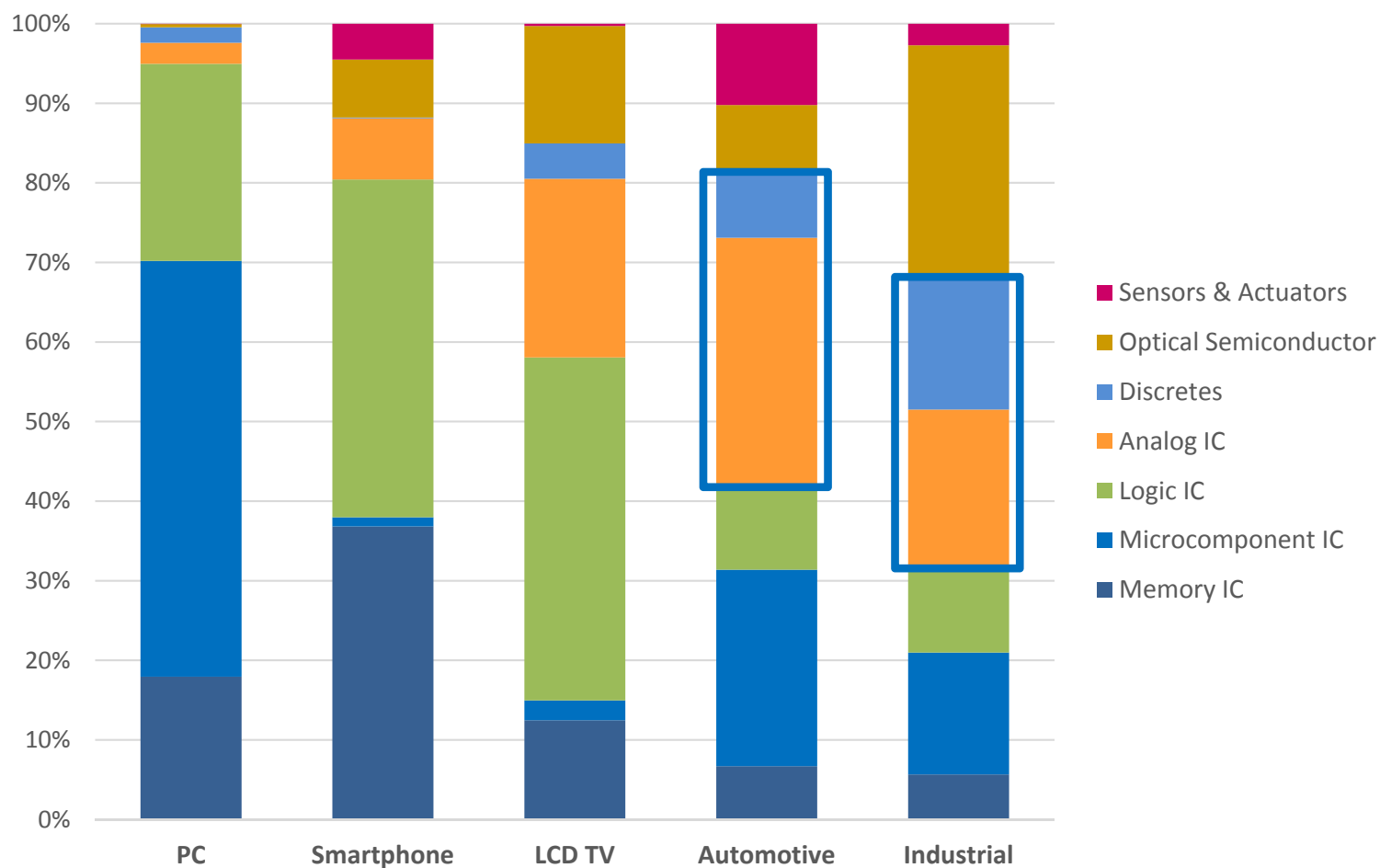
半導体市場の成長率 2015-2018



【出典】 WSTS 2016年春季半導体市場予測

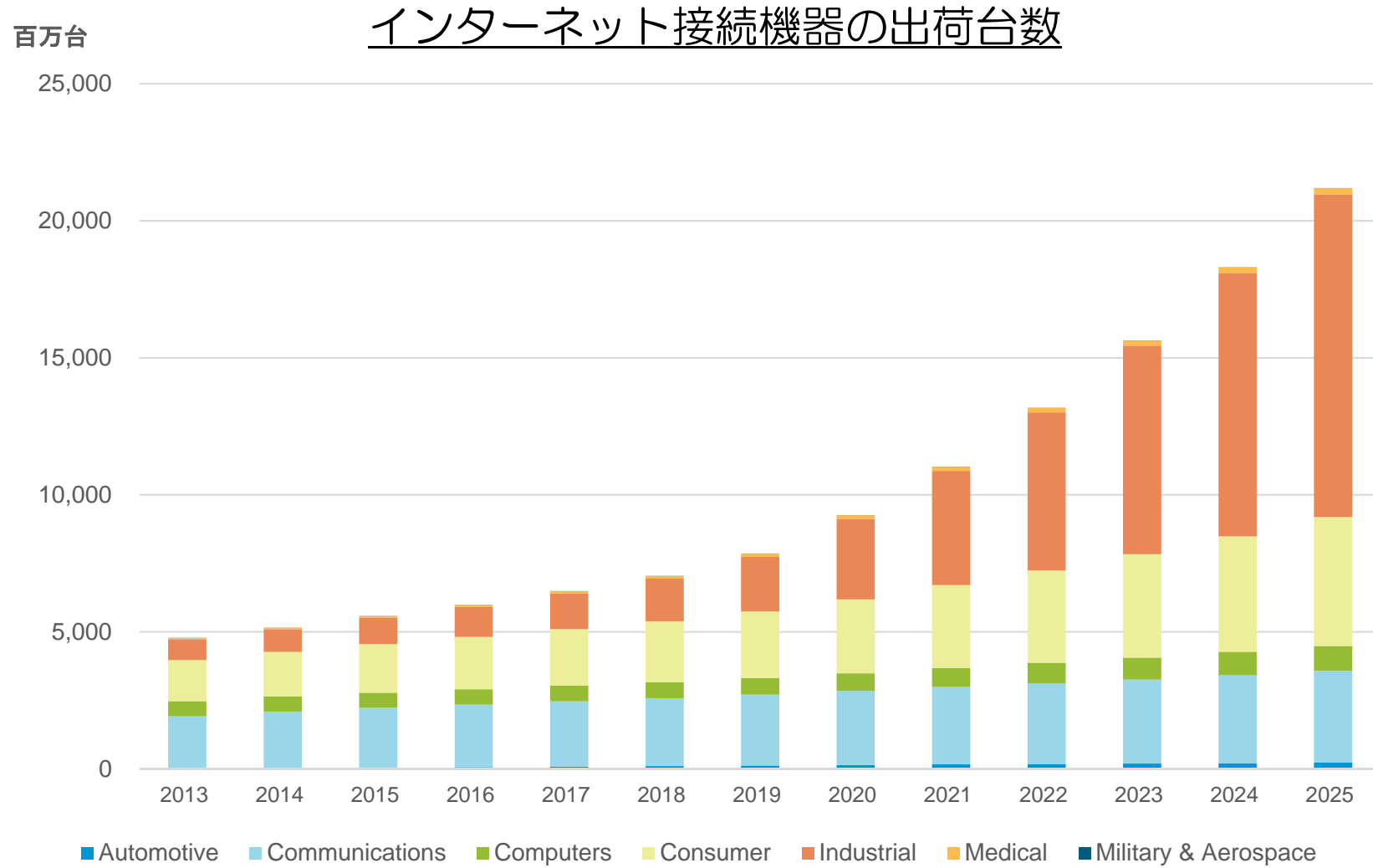
特に重点分野においてアナログICとディスクリートの重要性が高まります。

機器別の半導体構成比



【出典】 IHS Global株式会社

産業機器のネット接続（IoT）が急速に進展します。

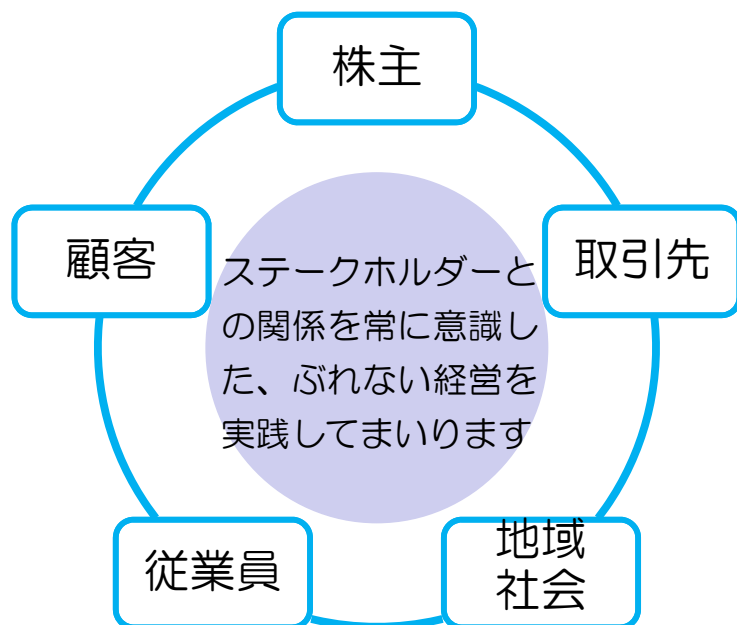


【出典】 IHS Global株式会社

私たちの目指す姿、取り組むべき課題は不変です。

企業理念

常に豊かな知性と感性を磨き、市場に適応した価値ある製品を創出し、豊かな社会の実現と地球環境の保全に貢献するとともに、私たちの事業に携わるすべての人々が共に繁栄する。



ステークホルダーとの関係を尊重し、世界に存在感のある企業を目指します。

取り組むべき課題

集中 攻略

当社グループの強みを活かせる成長性の高い市場として、産業機器・車載機器・医療機器の市場を集中的に攻略する

差別化

当社グループの技術力及びノウハウを結集し、技術ロードマップに基づいた「強み」の強化と拡張を図り、差別化された特長のある製品を創造する

総合力

当社グループの企画・開発・購買・生産・品質・販売に係るリソースの緊密な連携を図り、低コスト・高品質の製品を安定供給することを通じて、顧客へ提供する付加価値を高める

戦略的 提携

戦略的提携を活用して新たな基盤技術や生産技術を積極的に取り込む

フェニテックのグループ化を機に、目指す姿に向けて重点目標を設定します。

▶ 高収益体質の回復・向上

営業利益率18%、ROE12%を目標指標とする

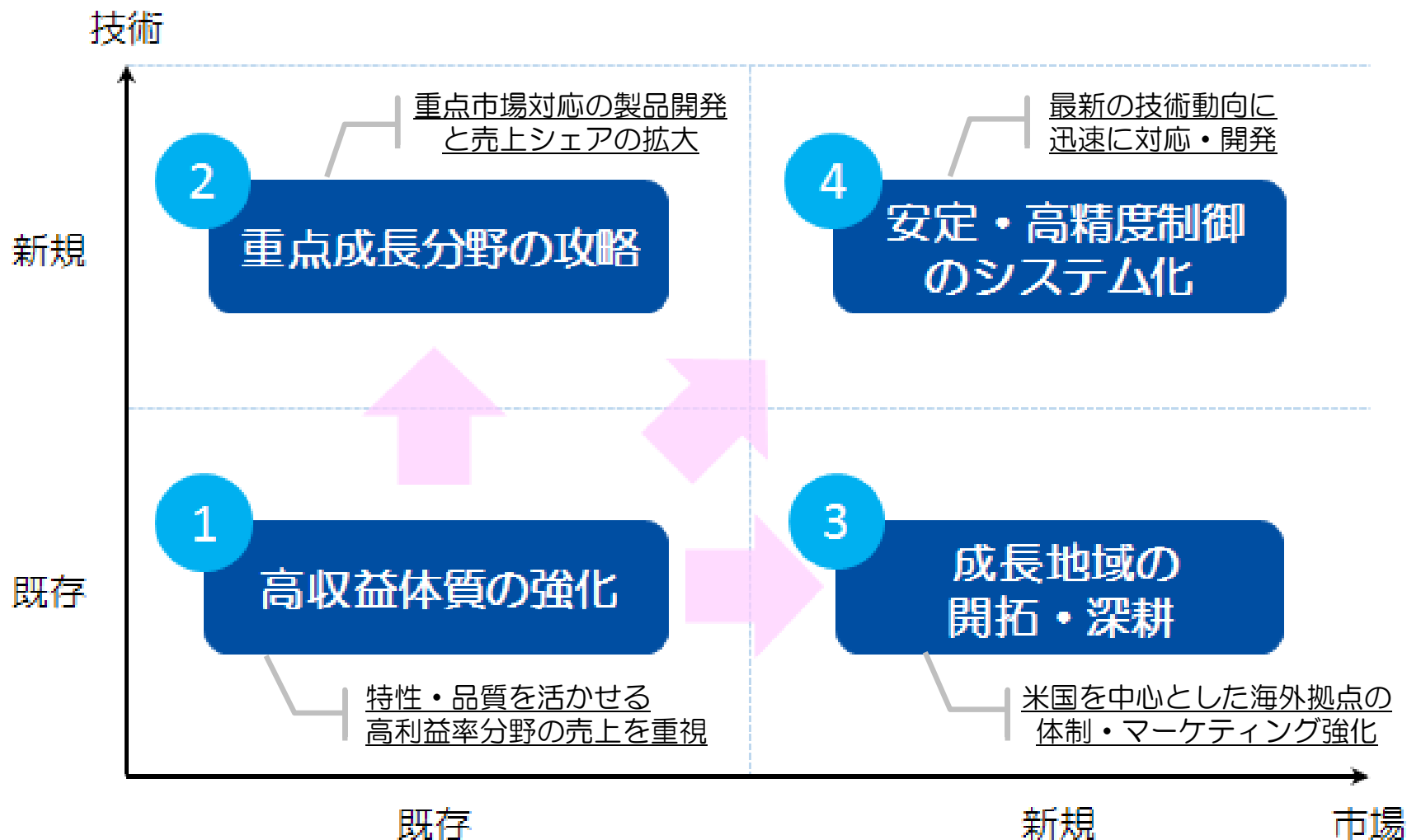
▶ 高い信用力／信頼性の確立

BCP対応を含めた長期安定供給の体制を確立
最高水準の品質・信頼性を実現

▶ 重点市場でのシェア向上

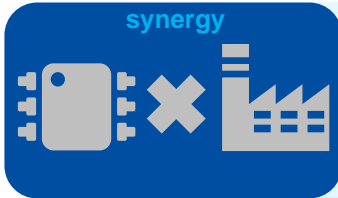
車載・産業・医療機器市場でのシェアアップ
新規市場での採用増（ウェアラブル、ドローン、ロボット、VR等）

高収益体質の確立を基盤として技術・市場の両面から面的な成長を期します。



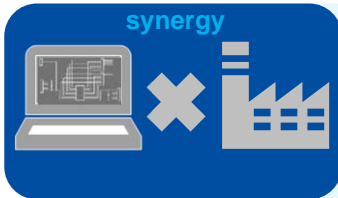
私たちの目指す姿の実現のためグループ力の最大化を図ります。

差別化



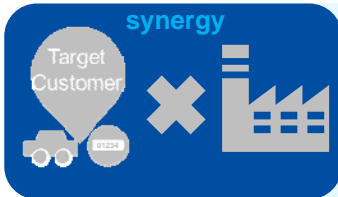
フェニテックのディスクリット製品を中心とした技術・知見、オリジナル製品を加えて、両社が協力して開発・販売に取り組むことによって、お客さまへご提供する付加価値を高めてまいります。

総合力



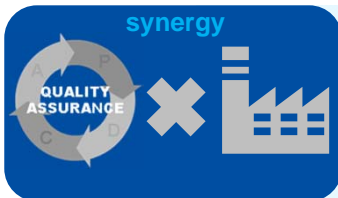
新製品の企画段階から、両社間で製造方法や生産管理手法を含めた協力体制を敷き、開発から製造までを効率よく進めることによって、お客さまへタイムリーに製品をお届けしてまいります。

集中攻略



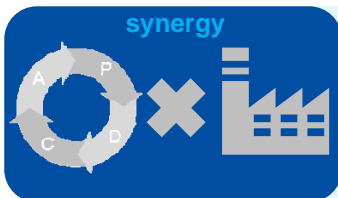
今後当社が開発する産業機器・車載機器向け製品に要する基礎技術の開発、製造キャパシティの整備を協同して進めてまいります。

総合力



両社の保有する品質管理に関わる技術・設備・ノウハウを持ち寄り、各種の認証制度に的確に対応した品質管理・保証体制の強化を図ってまいります。

総合力



重複する工程や設備投資等を洗い出し、投下資金の効率化を図ってまいります。

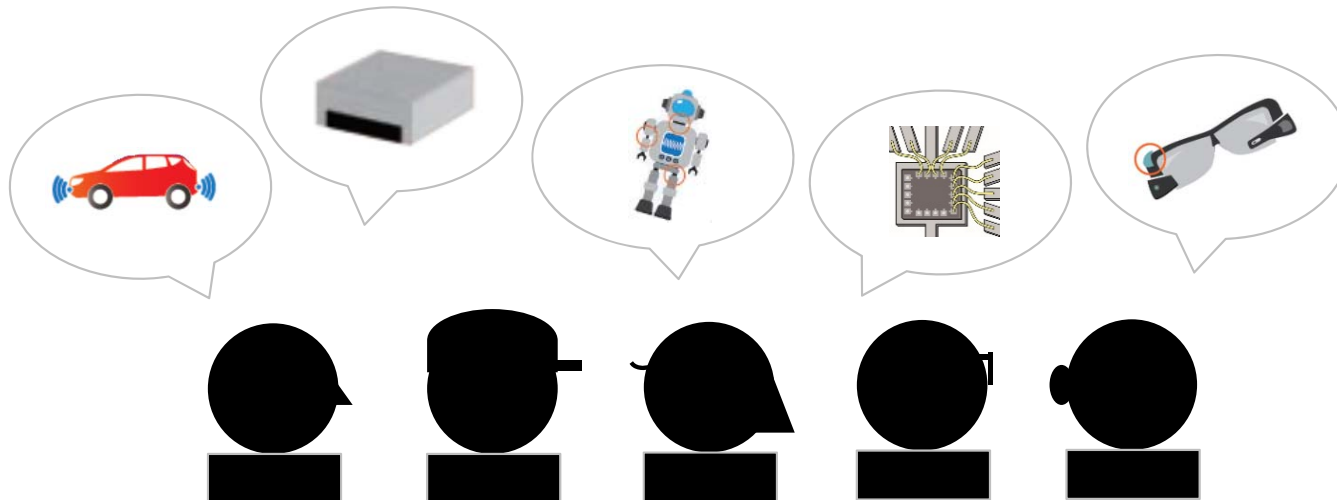
トレックス・グループの方針に沿って経営資源を相互活用して長期的な相乗効果を実現します。



研究開発

新規製品の売上創出効果1.5億円（3年後）

- 両社の基礎技術・ノウハウを活かした新製品開発
- 低消費、低電圧、高精度化の技術
- ICとディスクリート等のモジュール化
- 開発から製造までの密接なすり合わせ
- 車載市場深耕に向けた各種規格対応の推進



トレックス・グループの方針に沿って経営資源を相互活用して長期的な相乗効果を実現します。



製造

原価低減効果0.7億円（3年後）

- 産業・車載市場に向けた長期かつ安定的な体制
- 鹿児島工場有能力活用（微細化・効率化）
- 投資の効率化
- 品質管理体制の強化



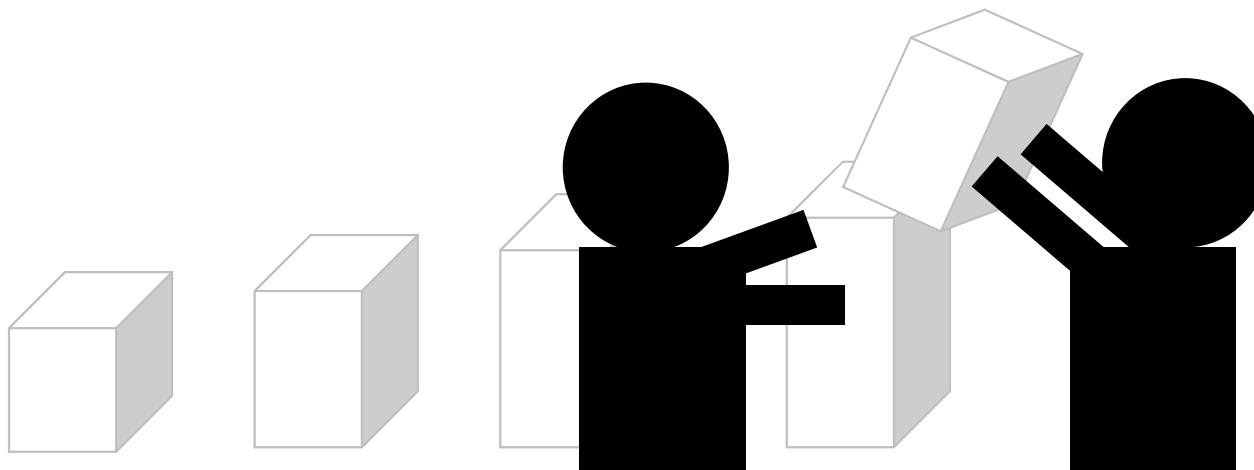
トレックス・グループの方針に沿って経営資源を相互活用して長期的な相乗効果を実現します。



販売

既存製品の売上拡大効果2億円（3年後）

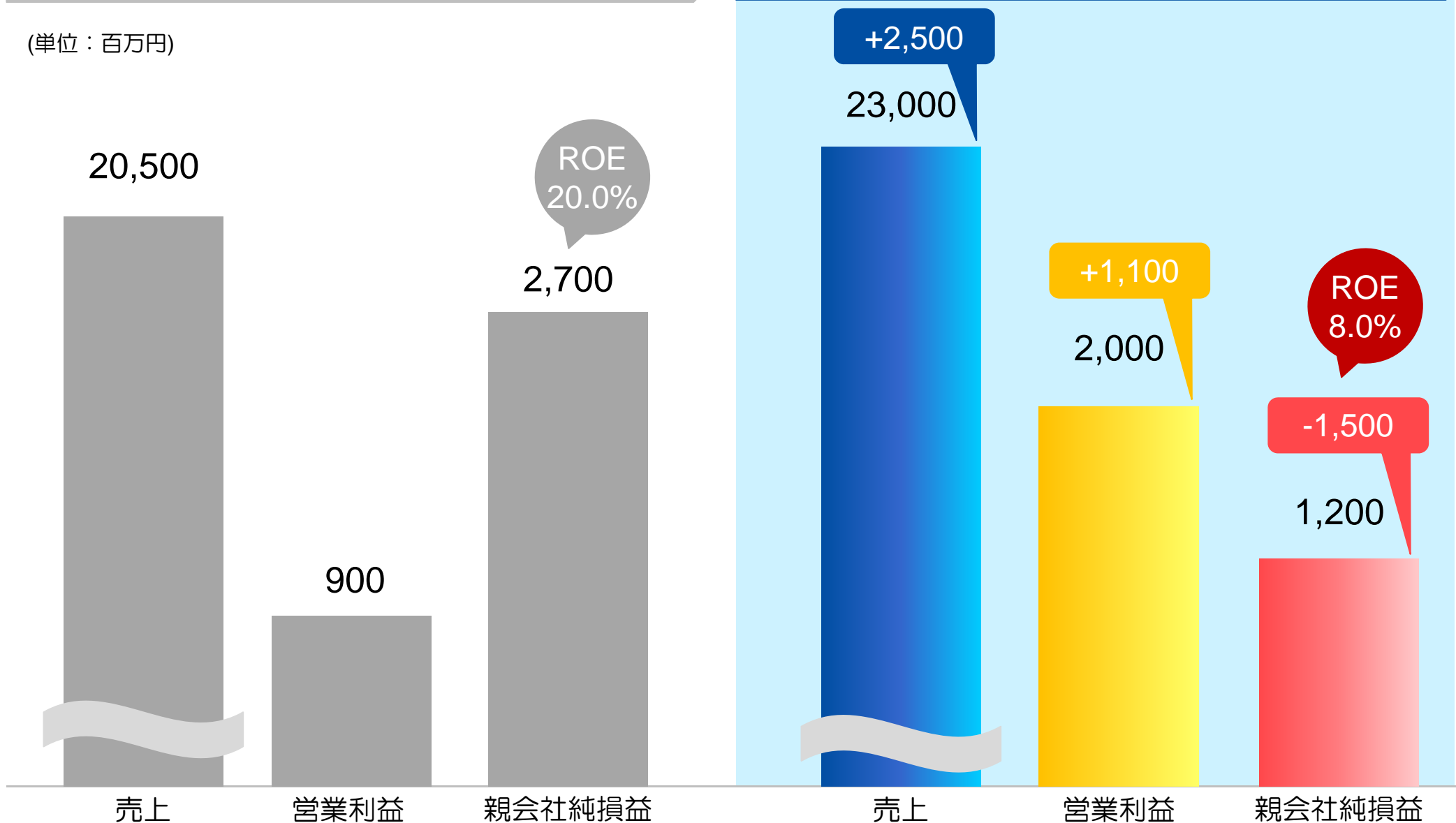
- 両社製品のクロスセル
- 産業・車載市場の共同開拓
- 仕掛品・製品在庫の回転率改善
- 顧客満足度の向上



2017年3月期

2019年3月期

(単位：百万円)



株主還元

戦略的投資による成長力の向上を図りつつ、当社を取り巻く経営環境並びに中長期の連結業績及び株主資本利益率の水準を踏まえて実施していくことといたします。

配当につきましては、業績水準を反映した利益配分として連結配当性向20%以上、安定的かつ継続的な株主還元の拡充として株主資本配当率（DOE）3%程度を当面の目標として実施してまいります。

1株当たり配当金			
基準日	第2四半期末	期末	年間
前期実績	16円00銭	16円00銭	32円00銭
今期 配当予想	16円00銭	16円00銭	32円00銭

当社は、平成28年11月28日に子会社フェニテックセミコンダクターが保有する当社株式の全て176万株を取得いたします。

上記の取得株式のうち116万株を平成28年11月30日（予定）に消却いたします。これによって当社の発行済株式総数は10,651,200株（9月末現在）から9,491,200株（予定）となる見込みです。

Appendix

会社紹介

会社紹介

(1) 概要

- 2014年4月にJASDAQスタンダード市場に上場、その1年後の2015年10月に東証二部に市場変更した、創業21年の半導体メーカーです。

アナログのチカラ

ABOUT TOREX

所在地	東京都中央区新川1-24-1 秀和第2新川ビル
代表者	代表取締役会長 藤阪 知之 代表取締役社長 芝宮 孝司
資本金	18億2061万円（2016年9月30日現在）
事業内容	1.半導体デバイスの開発、設計製造 2.半導体デバイスの販売
従業員数	当社：164名 / グループ：1,002名
上場証券取引所 及び上場日	東京証券取引所 市場第二部 2015年10月15日
単元株式数	100株
決算期	3月末日
証券コード	6616
URL	https://www.torex.co.jp/

常に豊かな知性と感性を磨き、市場に適応した価値ある製品を創出し、豊かな社会の実現と地球環境の保全に貢献するとともに、私たちの事業に携わるすべての人々が共に繁栄することを企業の理念とする。



(2) 事業内容

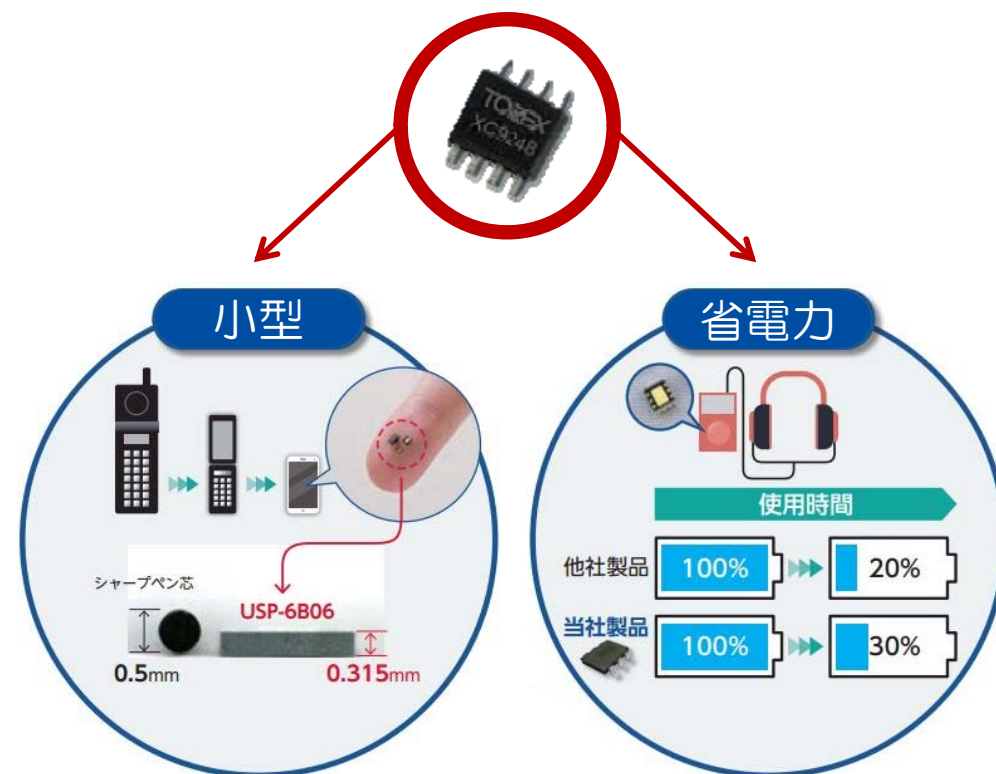
- 世界トップクラスの小型・省電力電源ICを開発・販売しています。

電源ICの役割



電子機器の様々な機能を動かすために
電圧を制御し安定供給する

TOIREXの電源IC

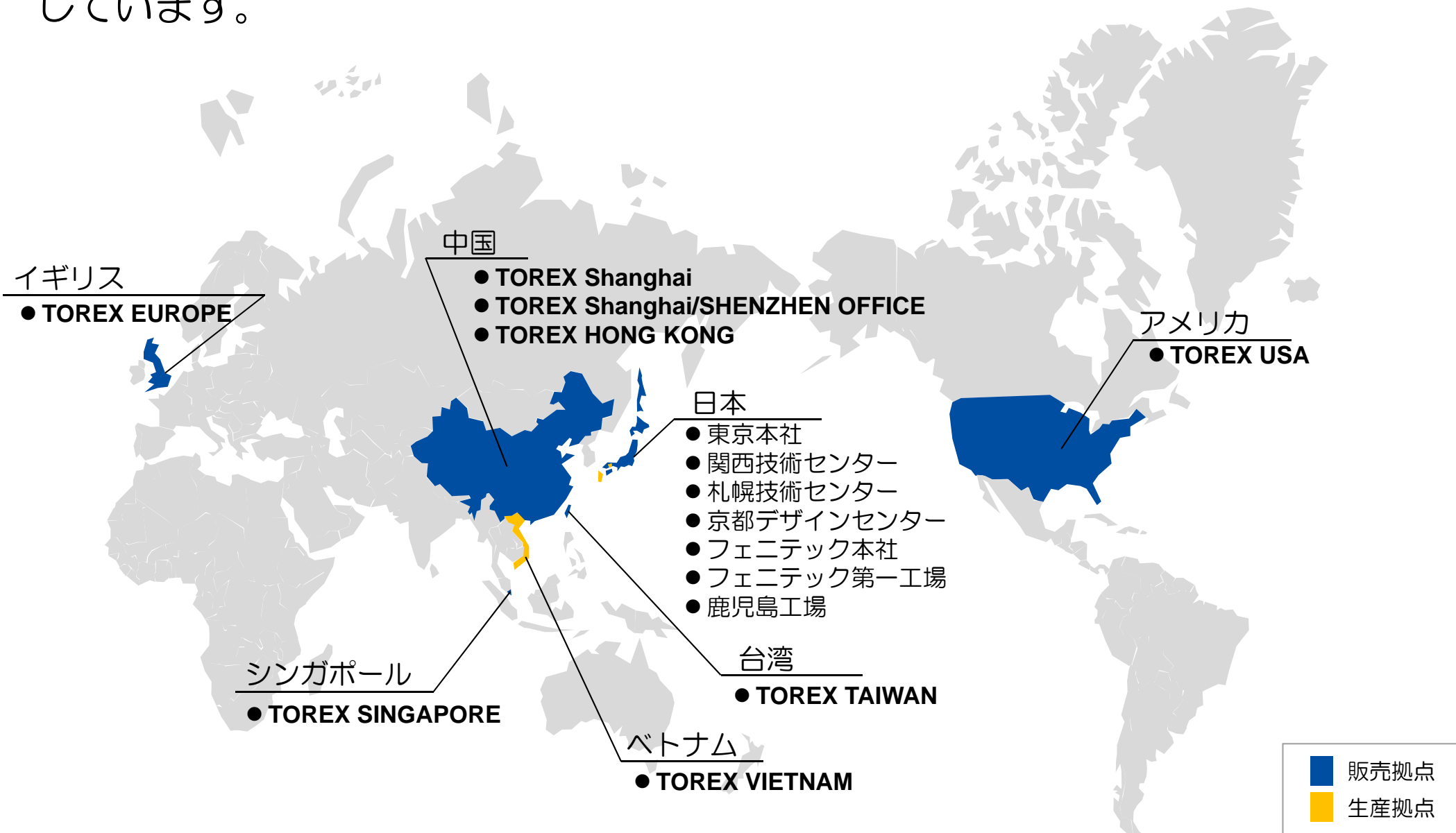


独自の技術で電子機器の
小型化、省電力化に貢献

会社紹介

(3) 拠点

- 国内に東京本社を含む7拠点、海外6カ国に8つの拠点を設け、世界の需要に対応しています。



Powerfully Small!

常に豊かな知性と感性を磨き、
市場に適応した価値ある製品を創出し、
豊かな社会の実現と
地球環境の保全に貢献するとともに、
私たちの事業に携わるすべての人々が
共に繁栄すること



本資料に記載された内容は、2016年11月18日現在において一般的に入手可能な情報と、合理的と判断する一定の前提に基づき、当社が作成したものです。

本資料に記載されている当社の中期計画、見通し等に関する記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。

実際の業績は、これらの要素により本資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

投資に関するご決定をされる際、本資料のみに全面的に依拠することはお控えいただき、みなさまご自身のご判断でなされるようお願い致します。